



医療と病院の基礎知識



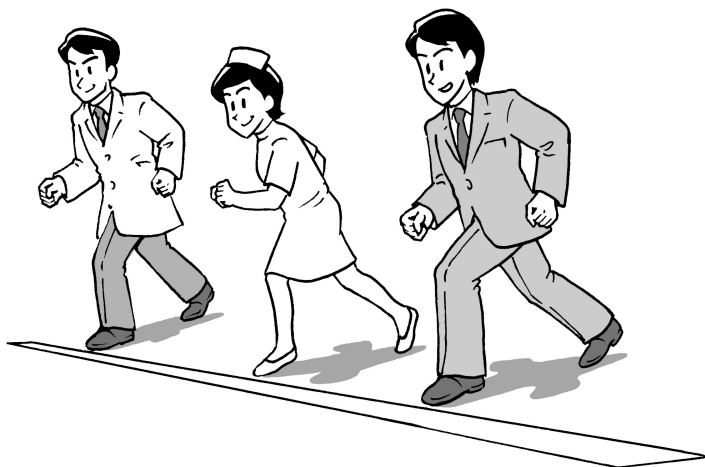
病院職員として

(1) 病院職員としてのスタートに当たって

医療機関に勤務する社会人として心得ておくべきことを最初に述べておきます。まず、最初に理解してほしいことは、医療機関（病院）という職場で求められる社会人としての常識は、基本的なことは一般企業と何ら違いはないということです。社会の常識という点では、医療職と他の職業と異なった感覚で捉える必要はありません。社会人としての常識が最初にあり、それに付加された形で専門職としての資質や意識が求められています。医療職だから専門職だからといって特別な考えや扱い方をされることはなく、社会人としての心得が基本となります。

白衣を着て仕事をすると、医師以外の職員でも患者さんから「先生」と呼ばれることがあります。この言葉は、あなた個人を「先生」と呼んでいるのではなく、医療への信頼を寄せる言葉の表れであると理解してください。多くの患者さんは、新人として就職されたあなた方よりも人生経験も豊富であり社会的なかわりも深いと考えるのが当然です。ですから、患者さんが抱いている信頼に応える意味を含めて、同じ社会人としてお互いに尊敬し合う心を持って仕事をしてほしいと思います。

そして次に「仕事をする」ということが何を意味するのか、ということを考えてほしいと思います。人は働かなければ生きていけません。先祖の蓄えた財産などで生活するといった特別な例を除けば、個人で事業を行わない限り、どこかに就職することで働く場を得るのです。したがって仕事をするということは組織の一員として役目を担うこと、



そしてそこには必然的に「権利と義務」が生じるということを理解してください。

就職するということは、事業主と労働者が労働契約を結ぶということです。この契約には、労働の対価としての給料を得る権利が発生しますが、一方では組織の目的に応じた労働を提供するという義務が生じます。

自分が思う仕事のスタイルと違っていか、仕事の内容や勤務の配置が気に入らないといっても労働契約を結んだ以上は、事業主の方針に従うことが前提になります。

例えば、あなたに専門の分野を追究したいという欲求があったとします。しかしその欲求を満たすことと組織の一員として役目を果たすことが一致しないこともあります。組織の目的、勤務する病院が何を目標そうとしているのかが優先されることは当然です。社会の厳しさもそこにあります。私には私の生き方があると考え、個人的な行動しかとれないような場合は、組織の一員としては不適切とみなされることになります。

もう1つ、病院職員として心得てほしいことに「人間関係」を大切にすることがあります。個人が尊重される時代に生まれ育ってきた人たちには、「人間関係がわずらわしい」と思うことが多いかもしれません。しかし、人間関係こそ仕事の基本です。いつも前向きに取り組む姿勢が大切です。社会人としての成功の鍵は、あなた自身が握っていることを忘れないでください。

*よき上司に巡り合えることの喜び

仕事をしていくうえで大切なことに上司との関係があります。手本となるよき上司に巡り合えることは、新入職員にとって幸せなことです。信頼する上司をみつけて常に指導を請うように心がけてください。上司としても、何かにつけ慕ってくる部下の名前は他の新人よりも早く覚え、親しみがわかれば、次第に仕事の要領やコツを伝えようとするものです。名前を真っ先に覚えてもらい、仕事に対する指導が親密になればなるほど、あなたの医療人としての成長も早くなり得をすることになります。

(2) 病院の基本方針を理解しよう

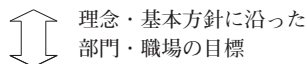
病院には運営の基本を定めた「理念・基本方針」が明確にされています。理念とは「病院運営の信念、信条、理想」といったもので行動指標となる考え方を示すものです。そして基本方針とは理念を具体的に実現するための指針を言います。これらは病院が目指すべき方向性を表現したものであり、日々の活動を支える極めて重要なものです。病



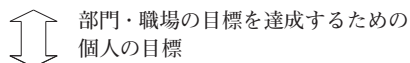
院によっては、さらに部門の目標、個々の職場の目標、個人の目標といった段階まで設定しているところもあります。

病院が示す理念・基本方針を理解していなければ、職員は共通の目標が分からず、物事を判断する基準を見失って、誤った選択をする可能性もあります。自分が入職した病院がどのような考えのもとに運営されているか、最初にしっかりと理解する必要があります。

病院の理念・基本方針



部門・職場の目標



個人の目標

2

医療とは

医療とは、辞書を引くと「医術で病気をなおすこと」（広辞苑）とあります。近代的な医療が実践される以前の呪術から始まり、治療技術の進歩が医療の発展を支えてきました。近年の医療はその変化が著しく、臓器移植、生殖医療、遺伝子治療といった、生と死の領域にまで及んでいます。

私たちが仕事として携わる医療には、三つの大切な要素があります。①診断が確かであること、②治療の経過が安全でより効率的であること、そして、③結果がよいことです。

病院にある検査用の医療機器は診断を確実にするためのものです。最近では数億円するような医療機器も珍しくありません。病気の原因を特定することは、治療方法を決定することに繋がることから、大変大切なことです。また、治療の内容は安全かつ効率的に行うべきです。どれだけ時間やお金がかかってもいいというものではありません。最近では、詳細な治療計画を事前に患者さんに説明することが多くなっています。

そして、病気が治ることが何よりも大切になります。病気の治らない病院に患者さんは行きません。そもそも病院は病気を治す場所であり、そのことが医療の本質として最も大切なことです。

また、国民が医療に求めるものも変化しています。それは学問としての「医学」が前面に出たものではなく、サービス業*としての「医療」に対する要求です。

日常生活の健康の問題として、治療を主体とするいわゆる診療、健康を維持するためのヘルスケア、福祉に近いところの療養といった具合に、保健・医療・福祉を統合した広い範囲を医療サービスとして捉えて考えられています。